

## 広島大学マスタース講演会（第22回）

### 「世界の半導体の市場の動向とマイクロメモリジャパンについて」

（令和7年度広島大学マスタース講演会報告）

広島大学マスタース会員 上 真一

標記講演会が、2025年9月13日（土）午後1時30分～午後3時15分、広島大学ミライクリエ多目的ホールにおいて、マイクロメモリジャパン社の秋山裕明ディレクター（External Relations Advisory）を講師として行われた。後援は広島大学スマートシティ共創コンソーシアム、参加者は約40名であった。

東広島市吉川工業団地内に、白い湯気をもうもうと吐き上げている巨大工場がある。会社名はマイクロメモリジャパン、世界有数の半導体メーカーであるマイクロメモリ社の広島工場である。しかし、多くの東広島市民にとってこの工場は謎ではなからうか。一体、ここではどんな半導体が、どのように生産されているのか？最新の半導体市場の動向はどのようなのか？秋山講師は、素人にも理解できるように平易に解説してくださった。

広島工場では、コンピュータやスマホなどに使用される半導体記憶素子の一つであるDRAM (Dynamic Random Access Memory)が生産されている。ホコリを徹底的に除去した清浄環境下で、直径30cmのシリコン円板（ウェハ）上に数千工程の加工を加えて多数のチップを完成させる。個々のチップを切り出し、パッケージで封入して、製品としてのDRAMが完成する。広島工場での生産量は、世界総DRAM生産量の約10%に相当するとのことだ。これからは人工知能（AI）が益々重要な時代になるから、より多くの情報量を、より速く、しかもより少ない電力消費で処理することのできるDRAMの需要が高まる。「今は、半導体の新たなカンブリア爆発期にも例えられる」と秋山さんはおっしゃった。偶然にも、講演会当日の朝刊各紙に「経済産業省がマイクロに5360億円助成」との記事が大きく載った。半導体を巡る国際競争が激化する中で、日本政府としてマイクロメモリジャパンを支援するとの現れである。

秋山さんは広島大学を卒業して日本電気に入社後、一貫してDRAMの開発・製造に従事してこられた。一方で、この工場の持ち主は、日本電気、エルピーダメモリ、マイクロメモリと移り替わった。言わば日本の半導体産業の激動期を生き抜いた人だからこそ、経験に裏打ちされた話は参加者の興味を大いに惹き、講演後は活発な質疑応答が行われた。

